

第5学年 音楽科学習指導案

埼玉県公立小学校

1 題材名 「日本の音楽に親しもう」

2 題材のねらい

- (1) 音色や旋律、音階、拍などと曲想との関わりを理解して、日本の旋律の特徴に合った歌い方で歌ったり、日本の音階を用いてまとまりのある音楽をつくったりする技能を身に付ける。
- (2) 音色や旋律、音階、拍などと曲想との関わりについて考え、それらが生み出す曲や演奏のよさなどを見出しながら曲全体を味わって聴いたり、それらを生かした歌い方や、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもったりする。
- (3) 我が国や郷土に伝わる音楽や旋律に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞、歌唱、音楽づくりの学習活動に取り組み、我が国の様々な音楽への関心を深める。

3 題材について

(1) 題材について

本題材は、箏と尺八による音楽や郷土に伝わる民謡などを鑑賞する学習を行い、それらの経験を生かして、我が国や郷土の音楽に親しみながら、長く受け継がれてきた伝統や文化への理解も深めていくようにする。

声の出し方や歌い回し、拍のある音楽や拍のない音楽といった観点から民謡を比較鑑賞する過程で、生活と結び付いて歌い継がれてきた音楽があることに気付いたり、感じ取ったことや気付いたことを発表し合ったりする活動を通して我が国や郷土に伝わる音楽のよさや特徴を改めて見直す機会にした

(2) 学習指導要領との関連

本題材の「音楽づくり」については、小学校学習指導要領の以下の内容に基づくものである。

本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素 ア「旋律」 イ「反復」「呼びかけとこたえ」

【A表現：(3) 音楽づくり】

- ア 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の(ア)及び(イ)をできるようにすること。
- (ア) 即興的に表現することを通して、音楽づくりの様々な発想を得ること。
 - (イ) 音や音楽へと構成することを通して、どのように全体のまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。
- イ 次の(ア)及び(イ)について、それらが生み出すよさや面白さなどと関わらせて理解すること。
- (イ) 音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴
- ウ 発想を生かした表現や、思いや意図に合った表現をするために必要な次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。
- (ア) 設定した条件に基づいて、即興的に音を選択したり、組み合わせたりして表現する技能
 - (イ) 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくる技能

4 教材について

<鑑賞>

○「春の海」

宮城道雄作曲。日本の伝統的な楽器である箏と尺八によって、のどかな春の海や飛び交うかもめの様子が詩情豊かに表現されている。

○「ソーラン節」

北海道日本海沿岸部の民謡。ニシン漁の時に歌われていた仕事歌。拍節のあるリズムで歌われ、網の中のニシンを引き上げる「沖揚げ音頭がもとになっている。

○「かりぼし切り歌」

宮崎県高千穂地方の民謡。牛馬の冬の飼料である干し草を刈り取る作業の時に歌われた仕事歌。拍節のない自由なリズムで歌われ、律音階のものと都節音階のものが普及している。

<歌唱>

○「子もり歌」

子守歌の中でも、全国的に歌われてきた代表的なものである。「眠らせうた」で、江戸時代中期に江戸で歌われていたものが参勤交代でやってきた武士や商人たちによって全国に広まったといわれている。ここでは、律音階と都節音階を取り上げる。

<音楽づくり>

○日本の音階の音（ミファラシド）で音楽づくり

本題材では、日本の箏曲や子守歌などの音楽で使われることの多い都節音階（ミファラシド）の音階から音を選んで旋律づくりを行う。

[旋律づくりのルール]

- ・ 都節音階
- ・ 4分の4拍子 2小節
- ・ 教科書のリズム 2種類
- ・ 音色はミニキーボード 55と29を使用

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知技① 曲想やその変化と、箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどの関わりを理解している。</p> <p>② 曲想と歌詞の内容や音色、旋律などとの関わり関わりについて理解し、呼吸や発音の仕方に気を付けて歌っている。</p>	<p>思① 箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>② 二つの旋律の違いを聴き取り、それぞれの表情や雰囲気を感じ取りながら、聴</p>	<p>態① 我が国や郷土の音楽に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

<p>③ 曲想と旋律や拍との関わりを理解している。</p> <p>④ 旋律のつなげ方や重ね方の特徴をそのよさや面白さと関わらせて理解し、反復を用いて、音楽をつくる技能を見に付けて8小節のまとまりのある旋律をつくっている。</p>	<p>き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図を持っている。</p> <p>③ 音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、旋律の上がり下がりやつなげ方を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>② 我が国の音楽に使われている音階や旋律の特徴に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>
--	--	--

6. 題材の主な指導計画 (全6時間)

時	○主な学習内容 ・学習活動	◇教師の働き掛け◆具体的な評価規準 (評価方法)
1	<p>○箏と尺八の音色に親しみ、曲全体の構成をつかんで聴く。</p> <p>・曲名を知り、始めの部分を聴く。</p> <p>○箏と尺八の音色や旋律の関わり合いに気を付けて聴く。</p> <p>・箏と尺八について知る。</p> <p>・全曲を通して聴き、曲の構成を知る。</p>	<p>◇曲名を手掛かりに、どのような風景を描こうとしたのか想像する。</p> <p>◆曲想やその変化と箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどと関わりを理解している。【知技①】(発言)</p> <p>◇箏と尺八の映像を活用する。</p> <p>◇曲想が変化したあと、始めの旋律が現れることに気付くようにし、ア→イ→アという構成を確認する。</p> <p>◆箏と尺八の音色や旋律、呼びかけとこたえなどを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。</p> <p>【思①】(発言・ワークシート)</p>
2	<p>○曲想を感じ取って律音階による子もり歌を歌う。</p> <p>・律音階の子もり歌を聴く。</p> <p>○二つの旋律の感じの違いを味わって歌う</p>	<p>◇階名唱をしてファとシがないことに気付くように促し、律音階の雰囲気を感じ取るようにする。</p> <p>◆曲想と歌詞の内容や音色、旋律などとの関わりについて理解し、呼吸や発音の仕方に気を付けて自然で無理のない響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・都節音階の子もり歌を聴く。 	<p>っている。 【知技②】(演奏・発言)</p> <p>◇楽譜の違いに着目し、二つの音階を比べるようにする。</p> <p>◆二つの旋律の違いを聴き取り、それぞれの表情や雰囲気を感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 【思②】(発言・演奏)</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土の音楽の背景を知り、曲想を感じ取って聴く。 ・歌詞を手掛かりにどんな仕事をするときに歌う歌なのか想像する。 ・二つの民謡について、聴き取った歌詞や曲の特徴から気付いたことや感じ取ったことを共有する。 	<p>◇歌詞から、大勢で力を合わせる仕事と一人で行う仕事の違いが、雰囲気の違いにつながっていることに気付くようにしたい。</p> <p>◆曲想と旋律や拍との関わりを理解している。 【知技③】(発言)</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ○日本のいろいろな民謡を聴き比べる。 	<p>◇曲名をふせて聴かせ、拍にのったリズムか拍のない自由なリズムの曲か考えるようにする。</p> <p>◆我が国や郷土の音楽に興味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞や歌唱の学習活動に取り組もうとしている。 【態①】(観察・発言)</p>
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> ○旋律の上がり下がりやリズムを工夫して旋律をつくる。 ・音階の音をミニキーボードで演奏して雰囲気確かめる。 ・リズムを決める。 ・旋律の音の上がり下がりや終わりの音を考えて自分の旋律をつくる。 	<p>◇始めは、1音、2音で試し、慣れたら5音に増やすなど、全ての音を使わなくてもよいことを伝える。</p> <p>◆音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、旋律の音の上がり下がりやつなげ方を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 【思③】(演奏・ワークシート)</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ○組合せを工夫しながら、3人で旋律をつなげて、まとまりのある旋律をつくる。 ・3人一組になり、まとまりのある旋律をつくる。 ・繰り返しの旋律をつくり、重ねて演奏する。 	<p>◆旋律のつなげ方や重ね方の特徴のよさや面白さと関わらせて理解し、反復を用いて、音楽をつくる技能を身に付けてまとまりのある旋律をつくっている。 【知技④】(ワークシート)</p> <p>◆我が国の音楽に使われている音階や旋律の特徴に興</p>

		味・関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。 【態②】(発言・ワークシート)
--	--	---

7. 本時の展開 (5/6 時間目)

(1) 本時のねらい

- ・日本の音階(都節音階)に親しみ、旋律の上がり下がりやリズムを工夫して旋律をつくり、どのようにまとまりを意識した旋律にするかについて思いや意図をもつことができるようにする。

(2) 本時の展開

	○学習内容 ・ 学習活動	◇教師の働き掛け ◆具体的な評価規準 (評価方法)
導入	○旋律の上がり下がりやリズムを工夫して旋律をつくる。 ・音階の音をミニキーボードで演奏して雰囲気確かめる。(音色は5 5)	◇常時活動で2小節のリズム打ちや、都節音階の音(ミファラシド)音を使ってまねっこ遊びをする。
展開	・リズムを決める。 ・旋律の音の上がり下がりや終わりの音を考えて自分の旋律をつくる。	◇教科書のリズムをリズム打ちし、リズムだけだとどのような感じがしたか共有しておく。 ◇始めは、1音、2音で試し、慣れたら5音に増やすなど、全ての音を使わなくてもよいことを伝える。 ◇不安な児童にはシートを配布する。 ◇できた旋律は、必ず音を出して確認するように促す。
まとめ		◇なぜ、その旋律にしたのか、考えたことや工夫したことも記入することにする。 ◆音階や旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考え、旋律の音の上がり下がりやつなげ方を工夫し、どのように全体のまとまりを意識した旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。 【思③】(演奏・ワークシート)

(3) 備考

- ・楽器はミニキーボードを使用する。音色はSA-46の5 5を指定して行う。
- ・五音音階の使用する音がわかるようにシート活用し、視覚的に使う音がわかるよう工夫する。